

何のために勉強するのか

横浜共立学園中学校3年

かたやま わかな
片山 和香奈

「人生は毎日が勉強だよ。」

これは、看護師として働いている叔母の口癖だ。看護師は、看護学はもちろん、心理学や薬学まで様々な分野の勉強をする必要がある。そのため、毎日学ぶことが多くて大変なのだそう。今でも勉強会を開き試行錯誤している、と叔母はよく楽しそうに話してくれる。ある時、私は叔母に対して疑問を抱いた。なぜ、嫌がる人もいる勉強を楽しくこなすことができるのだろうか。私は楽しく勉強している叔母が不思議であり、羨ましくもあった。

そもそも、私たちはなぜ勉強するのだろうか。その問いに対する私の答えは2つある。

1つ目は、自分のやりたいことを実現するためだ。勉強することで、多くの知識が身に付く。そしてその知識は、夢を叶えるための糧となるだろう。また、知識は自分を高めるだけでなく、成長しようとする自分を守ってくれることもある。

私があることに気づいたのは、平山相太という日本人サッカー選手についての話を聞いた時だった。平山選手はとても優秀で、高校生の頃から将来を有望視されていた。しかし、オランダのチームに移籍した後、オランダ語を理解できなかったために退団し、帰国した。私は「もし平山選手がオランダ語を理解できていたら、今も活躍していたかもしれない。」と考え、残念に思うとともに、勉強することの大切さを改めて感じた。

2つ目は、環境の変化に適応する準備をするためだ。

先日の理科の授業で、環境問題についての議論をする機会があった。その環境問題は、「約50年後には、石油などの地下資源がなくなってしまう」という内容だった。そしてその対策として、電気を使わない原始的な生活をするべきか、新しいエネルギーを開発するべきか、どちらが適切かを考え多数決を採った。すると私のクラスでは後者を選択した人が大半だった。しかし私は環境に関する知識が浅く、「そもそも新しいエ

ネルギーを開発することは可能なのか。」などといった疑問が浮かんだため、正確な判断をすることができなかった。そして、もっと豊富な知識があれば適切に判断できたのではないかと考えた。

つまり、適切な判断をし、行動するためには、様々なことを知る必要があるのだ。現在はIT技術が進歩しているため、世界中の人々と情報を共有できるようになった。しかし、その反面誤った情報も多く流出している。そのため、「インターネット上の情報は半分が嘘だ。」と言われている今、情報を見極めるためには知識が必要である。だから、私たちは社会において必要な判断力を、今のうちから養うために勉強するのではないだろうか。

このように私たちは、自分の夢を実現し、環境に適応するために勉強するのだ。しかし、知識を身に付けるだけでは終わらない。なぜなら、勉強した後は、学んだことをどのように活用できるかが重要になるからだ。例えば、難しい問題に直面した時、自分が持っている知識だけでは対処しきれないかもしれない。だから、知識を応用する力が必要になるのだ。「人生は毎日が勉強だ。」という言葉は、このことを意味していたのだろう。

私の叔母の仕事はとても大変だ。しかしそれでも叔母が仕事を続けているのは、「困っている人を助きたい。」という揺るぎない夢があるからだと思う。そして何より、人の役に立っているという、確かな実感があるからこそ、楽しく勉強できているのだと私は考えている。

私の将来の夢は、新しく薬を開発することだ。難病を治す薬を作り、一人でも多くの人を救いたい。だから、常に変化する環境に適応するためにも、今から着実に勉強したいと思った。今学んでいることによって、将来、誰かを助けることができたら幸いだ。